

令和7年度

事業報告書



一般財団法人 札幌市スポーツ協会

1 地域スポーツ普及振興事業 (6,044 事業 137,779 人)

(1) 教室事業・交流大会 (5,969 事業 100,522 人)

ア スポーツ教室事業 (5,899 事業 88,495 人)

各施設において、技術の向上や健康・体力づくりを目的とし、各種教室事業を実施した。

一般事業においては、近年、子どもの体力づくりへの関心が高まる中、「バドミントン教室」や「フットサル教室」などの球技系種目のほか、幼児向けの「体操教室」や小学生向けの「ダンス教室」などを実施し、子どもの体力づくりの場を順次拡大した。また、会社勤めの成人にも参加いただけるように「ナイトヨガ」などのフィットネス教室を実施したほか、「健康体操」や「水中ウォーキング教室」など高齢者がスポーツをはじめるきっかけとなるプログラムを実施した。プール施設における水泳事業では教室自動継続化を行い、継続的に参加しやすい環境整備を推進した。(5,773 事業 81,689 人) さらに、障がい者スポーツ普及の観点から、水泳教室として「チャレンジスイミング」、体操教室として「チャレンジジム」、球技系教室として「チャレンジボールゲーム」(20 事業 91 人)を実施した。

その他高等教育機関及び専門機関との連携事業として、北翔大学との連携による「運動あそびい・ろ・は」などのスクール事業(16 事業 175 人)、学校開放施設を利用した「ヨガ教室」(4 事業 51 人)を継続実施するとともに、「カーリング教室・体験会」「アイスホッケー」などのウインタースポーツ活性化のための教室(75 事業 6,321 人)、施設間合同事業として市内を10グループに分けて施設を横断的に利用する多種目体験型教室「D0!スポKIDS」、高齢者を対象とした健康に関する知識と実践力を身に付ける「D0 スポ!シニア健康塾」(11 事業 168 人)など、季節や地域ニーズに応じた幅広い教室を実施した。

イ 教室事業のブランド化への取組

当協会が主催する教室事業について、市民にとってより認知しやすく、親しみやすい形で情報を届けることを目的に、ブランド化に取り組んだ。

ブランド構築にあたっては、教室事業の社会的価値や強みを再整理し、「教室プログラムの強さ」「社会のつながり」「これからの発展」の3つの軸を設定するとともに、教室事業ステートメントを策定した。

また、市民参加型ワークショップの開催を通じてブランドデザインを検討し、愛称「SASPO(サスポ)」を職員及び市民投票により決定したほか、キャッチコピーやイメージキャラクターを制作した。

さらに、広報誌の発行や動画・音声コンテンツの配信、広報物デザインガイドラインの策定、ホームページのリニューアルを実施し、情報発信の強化とブランドの統一を図った。

ウ スポーツ大会、スポーツイベント事業 (70 事業 12,027 人)

各施設において、「スポーツの日無料開放」(26 事業 8,742 人)をはじめ、テニス・サッカー・カーリングなど多種多様なスポーツ大会を開催し、地域におけるスポーツ活動の支援を行った。

また、「ミラノ・コルティナ 2026 オリンピック パブリックビューイング」や、教室受講者を対象としたダンス発表会などのイベント事業(35 事業 2,572 人)、複数の管理施設が連携した「泳力検定会」「ハンドボール交流戦」(9 事業 713 人)などを開催した。

(2) 普及啓発事業 (47 事業 20,203 人)

ア ウインタースポーツ塾／受託事業 (2 事業 1,429 人)

札幌市からの受託事業として、市内の小学生を対象にウインタースポーツ7種目(アイスホッケー・フィギュアスケート・カーリング・スノーボード・スキージャンプ・クロスカントリースキー・ショートトラック)の体験会の企画・運営を担った。夏季4日間(4種目 618 人)、冬季3日間(7種目 811 人)実施し、計1,429 人が参加した。

イ さっぽろっ子スケートチャレンジ検定事業／受託事業（1 事業 1,013 人）

札幌市からの受託事業として、夏期・冬期の二部制で実施した。中学生以下を対象に 3 会場（月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場）で全 21 回実施。1,013 人が参加し 1,604 枚の認定証が発行された。

ウ 歩くスキー常設コース事業／受託事業（2 事業 白旗山 1,949 人／中島公園 8,879 人）

冬季間、歩くスキーの常設コースを白旗山競技場と中島公園に設置・管理するとともに、中島公園においてスキー用具の貸し出しを行った。

エ ウォーキングステーション事業（5 事業 14 コース 851 人）

管理 5 施設をスタート・ゴール地点とした、国際市民スポーツ連盟（IVV）のイヤーラウンドコースを設置し、距離の認定を行った。

オ スポーツキャラバン事業（25 事業 772 人）

町内会及び PTA、企業などが行うスポーツ・健康づくり活動の促進を目的に、指導者の派遣、ニュースポーツ用具の貸出などを行った。

(ア) 指導員派遣として、連合町内会などの講座へ指導員を派遣（2 事業 772 人）

(イ) ニュースポーツ用具のレンタルとして、イベントなどへの用具を貸出（23 事業）

カ 小学校水泳授業／受託事業（11 事業 5,082 人）

札幌市からの受託事業として、清田区体育館・温水プール、手稲曙温水プール、豊平公園温水プール、平岸プール、東温水プール、白石温水プールの 6 施設において水泳授業を実施した。伏見小学校（660 人）、東橋小学校（288 人）、東山小学校（490 人）、元町北小学校（591 人）、東光小学校（358 人）、明園小学校（438 人）、東札幌小学校（535 人）、北都小学校（434 人）、白石小学校（467 人）、真栄小学校（396 人）、稲穂小学校（425 人）。

キ Let's やるスポ! 中学生／受託事業（1 事業 228 人）（うち指定管理施設外：65 人）

札幌市からの受託事業として、市内の中学生を対象に部活動の地域連携・地域移行に向けたモデル事業の企画・運営を担った。子どもたちのニーズに応じた多種多様なスポーツ体験の機会を創出することを目的に、従来の学校部活動にはないビームライフル、ピックルボール、スポーツクライミングなど、計 14 種目の体験会を実施した。

(3) 地域コミュニティ活性化事業（17 事業 13,496 人）

区役所、商店街組合、町内会などと連携し、指定管理施設では「手稲スポーツレクリエーション祭」「あつべつスポーツチャレンジ」等（12 事業 6,772 人）、指定管理施設以外では「ウインタースポーツフェスタ in 大倉山」等（4 事業 6,706 人）において地域活性化の活動・イベントに運営参画するとともに、水難事故防止を呼び掛けることを目的とした啓発事業「着衣泳体験会」（1 事業 18 人）を実施した。

(4) 障がい者スポーツの普及促進事業（11 事業 3,558 人）

ア 札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会への参画

札幌市の障がい者スポーツ行政推進への協力として、障がい者スポーツ普及促進における基本的な方向性と実現に向けた方策を協議する場である同協議会に参画した（6 月・11 月・3 月開催）。

イ （仮称）札幌市障がい者スポーツセンターに関する外部有識者検討会議への参画

札幌市が進める障がい者スポーツセンターの設置に向け、暫定拠点施設における活動内容や実施体制等について検討を行う外部有識者検討会議に出席し、意見交換を行った（6 月・8 月・11 月・3 月開催）。

ウ 冬季障がい者スポーツ指導者養成・体験会運営事業（2 事業 50 人）（うち指定管理施設外：26 人）

サッポロティネなどを会場とし、シットスキーのサポーターとバイスキーの指導者の養成やチェアスキーの理解促進のための研修会を実施するとともに、実践の機会として体験会を実施した。

エ パラスポーツ体験イベント事業（3 事業 1305 人）

(ア) 区体育館やプールなどの管理施設を会場として、障がいのある方を対象とした体験会を実施した。うち一部では、北海道教育大学の学生と連携し、未就学児も参加可能な運動遊具を用いた体験会「みんなのあそびば」を開催した。（1 事業 835 人）（うち指定管理施設外：53 人）

(イ) 「雪にふれよう！わくわくウインターフェスタ冬季パラスポーツ体験会」として、月寒体育館、月寒屋外競技場を会場に、パラアイスホッケーやシットスキーの体験会を実施した。（1 事業 280 人）

(ウ) 障がいのある方を対象とした専用開放イベント「SAPPORO スポーツバリアフリー」を西区体育館温水プールにて実施した。多様な運動機会の提供に加え、北海道理学療法士会等と連携し、運動や健康に関する各種相談対応を行った。（1 事業 190 人）

オ パラスポーツ体験出張事業（6 事業 2,203 人）（指定管理施設外）

(ア) 「札幌ウェルネスイベント」におけるボッチャ体験コーナー運営（4 事業 1,635 人）

(イ) 「さっぽろスノースポーツパーク 2026」におけるシットスキー体験コーナー運営（1 事業 422 人）

(ウ) 「ウインタースポーツフェスティバル」におけるシットスキー体験コーナー運営（1 事業 146 人）

2 スポーツ大会・イベントの開催及び誘致等（68 事業 41,994 人）

(1) 札幌市民スポーツ大会の開催（50 事業 18,834 人）

広く市民の間にスポーツの振興・普及・発展を図り、健康の維持増進と文化生活的向上に資することを目的に実施した。

ア 第 66 回札幌市民スポーツ大会総合開会式

開催日：5 月 22 日（木）

会場：札幌市教育文化会館

参加者数：123 人

イ 市民スポーツ大会開催経費補助事業

加盟団体が実施する市民スポーツ大会開催経費の一部補助を行った。

事業数：49 事業（49 競技）

参加者数：18,711 人（うち指定管理施設外：2,189 人）

(2) 第 48 回北海道を歩こう

真駒内から支笏湖までのサイクリングコースを歩く、ウォーキングのイベントを実施した。

開催日：5 月 18 日（日）

会場：真駒内中学校～札幌芸術の森～真駒内カントリークラブ～支笏湖ポロピナイ

種目：33 km、10 km、6 km

参加者数：1,047 人

(3) リレーマラソン in プレミストドーム 2025

1 周 2 km の特設コースをチームで走るリレーマラソンを実施した。

開催日：7 月 19 日（土）

会場：大和ハウスプレミストドーム

種目：フルマラソン（42.195 km）、ミニマラソン（10 km）

参加者数：4,832 人

(4) 第 50 回札幌マラソン

マイボトル・マイカップを使用した給水方法でマラソン大会を実施した。ハーフマラソン・10km は陸上競技連盟公認コース。

開催日：10月5日（日）

会場：真駒内セキスイハイムスタジアム

種目：ハーフマラソン、10 km、ファンペア、車いす 5 km、だれでも 1 km ほか

参加者数：13,615 人

(5) 第 46 回札幌国際スキーマラソン大会

クロスカントリースキーの普及振興を目的とした国際連盟「ワールドロペット」に国内唯一の加盟大会で、今年度は 50km、25km、10km 種目を白旗山競技場、10km、5km、3km 種目を大和ハウスプレミストドームにて実施。なお、50km と 25km はコース造成と降雪のタイミングが合わず、コースを変更し実施した。

ア 開催日：2月1日（日）

会場：白旗山競技場及び周辺コース

種目：50 km・25 km、10 km

イ 開催日：2月8日（日）

会場：大和ハウスプレミストドーム及び周辺コース

種目：10 km・5 km、3 km

参加者数：761 人（国内 630 人、国外 131 人）（うち指定管理施設外：129 人）

(6) スポーツ大会・合宿誘致及びスポーツツーリズムの推進事業（10 事業 2,905 人）

国際的及び全国的な規模で行われるスポーツ事業に関する協力及び支援を行った。

ア 国際大会誘致・合宿受入支援事業（7 事業 2,568 人）

(ア) スポーツナビオールスターカーリング 2025 参加者数：48 人

(イ) 3×3.EXE Premier（スリー・エックス・スリー・エグゼプレミア）ROUND.5（男子）

参加者数：男子 12 チーム 36 人

(ウ) チャレンジ！スポーツパーク 参加者数：2,461 人

(エ) FIS スノーボードワールドカップ 2026 サッポロオープン 参加者数：23 人

(オ) 合宿誘致に係る J リーグクラブ視察受け入れ

(カ) 現行合宿受入自治体と J リーグチームへのヒアリング

(キ) J リーグキャンプ受入チームの決定・覚書の締結

イ スポーツツーリズム推進事業（3 事業 337 人）

(ア) ナイトクロカン in 中島公園 参加者数：309 人

(イ) 台湾高雄富邦マラソンとの交流 参加人数：24 人（受入・派遣合計）

(ウ) モンゴル・ウランバートル国際マラソンとの交流 参加人数：4 人

(7) スポーツボランティアの啓発普及事業

ア スポーツボランティア運営・登録管理

市内外のスポーツイベント・大会に向け、スポーツイベントボランティア「スマイル・サポーターズ」の派遣を行った。派遣件数：51 件／延べ派遣人数：1,125 人

派遣先：札幌マラソン、北海道マラソン、レバンガ北海道ホームゲーム、小学校スキー学習等

イ 広報

登録者数の増加に向けた PR（会報誌「With Smile」の発行、市内大学等での講演）を行った。

会報誌発行数：6 件／講演回数：4 件

ウ 研修の実施

スマイル・サポーターズ会員等を対象とし、スポーツボランティア研修やハラスメント研修等を実施した。研修回数：5 件

(8) スポーツ大会・イベントとの連携・協力事業（3 事業）

ア 北海道マラソン 2025 8 月 31 日（日）

イ チャレンジ！スポーツパーク 1 月 6 日（火）・1 月 7 日（水）

ウ さっぽろスノースポーツパーク 2026 2 月 7 日（土）～2 月 8 日（日）

3 競技力向上・普及促進事業（436 事業 11,247 人）

(1) 加盟競技団体及びスポーツ団体などとの連携、支援に関する事業（1 事業 68 人）

ア 加盟競技団体への支援など

加盟競技団体代表者・事務担当者会議を開催し、各種事務処理の説明や意見交換などを行い、各加盟競技団体相互の連携と融和を図るとともに、加盟競技団体などの要請に応じて、適時、各種大会運営及び組織体制強化充実などについての指導・助言を行った。

また、加盟競技団体などが行う事業に対し、要請に応じて後援・協力を行った。

加盟競技団体理事長・事務担当者会議

開催日：3 月 3 日（火）

会場：ホテルライフオー・札幌

内容：令和 8 年度各種補助金事業取扱について ほか

参加者数：68 人

イ スポーツ団体との連絡調整

公益財団法人 北海道スポーツ協会及び北海道内のスポーツ団体と連携し、加盟競技団体並びにスポーツ団体等に対する組織強化、育成に関する事業を円滑に行った。

(2) 競技力向上・普及促進事業（87 事業 8,655 人）

加盟競技団体が、選手強化・育成や指導者の資質向上及び各競技の普及促進を図ることを目的に実施する事業経費の一部補助等を行った。

ア 競技力向上指導者講習会（1 事業 29 人）

開催日：1 月 22 日（木）

会場：北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

内容：『SNS とスポーツ～指導者が知っておくべきこと～』

講師：弁護士 飯田研吾 氏（兼子・岩松法律事務所）

参加者数：29 人

イ 競技力向上事業（31 団体 58 事業 6,318 人）

(ア) 加盟競技団体が行う選手強化育成事業への経費補助

（27 団体 51 事業、参加者 4,592 人 指導者 897 人）（うち指定管理施設外：3,619 人）

(イ) 加盟競技団体が行う指導者育成事業への経費補助

（4 団体 7 事業、参加者 623 人 指導者 206 人）（うち指定管理施設外：32 人）

ウ 普及促進事業（18 団体 27 事業 2,304 人）

（ア）加盟競技団体が行う普及促進講習会及び研修会開催事業への経費補助

（9 団体 18 事業、参加者 891 人 指導者 221 人）（うち指定管理施設外：194 人）

（イ）加盟競技団体が行うスポーツ教室等開催事業への経費補助

（9 団体 9 事業、参加者 855 人 指導者 337 人）（うち指定管理施設外：872 人）

エ 競技力向上指導者研修会（1 事業 4 人）

開 催 日：1 月 31 日（土）～2 月 1 日（日）

見学施設：味の素ナショナルトレーニングセンター、東京辰巳アイスアリーナ、
日本オリンピックミュージアム

内 容：競技力向上普及促進事業に携わる関係者がスポーツ先進地の視察を通して見聞を広め、
資質の向上を図ることを目的とする。

対 象 者：加盟団体代表者委員会常任委員

(3) さっぽろアスリートサポート事業（64 団体 319 事業 1,136 人）

次世代のトップアスリートを育成するため、札幌のスポーツ活動の充実と発展に寄与する団体及び個人の活動に対し、大会、強化合宿等の参加経費や指導者の育成に関する自己負担分の助成を行った。

ア 市民スポーツ振興事業（2 団体 2 事業 202 人）

市民が広く継続的にスポーツに親しむことのできる事業を行う団体に対し助成を行った。

（大人の長ぐつアイスホッケー大会「第 2 回長 1 グランプリ」ほか）

イ スポーツ大会出場及び強化合宿参加補助事業（36 団体 291 事業 577 人）

道外で開催される国際スポーツ大会、全国規模の青少年スポーツ大会及び合宿練習への参加に対し助成を行った。

（ア）国際スポーツ大会助成（第 19 回 JKJ0 全日本ジュニア空手道選手権大会～清河 太雅/優勝、オールジャパンベースボールリーグ小等部 2025 全国大会～新陽スターズ少年野球団/準優勝）

ウ 青少年冬季スポーツ振興事業（26 団体 26 事業 357 人）

札幌市スポーツ少年団又は青少年を対象とする冬季スポーツ団体が実施する普及・育成事業を行う団体に対し助成を行った。（真駒内フィギュアスケATINGクラブ、札幌ジュニアバイアスロンクラブほか）

(4) さっぽろジュニアアスリート発掘・育成事業（7 事業 666 人）

札幌市から次世代のオリンピック選手及びトップアスリートを輩出することを目的に、オリンピック出場や国際大会で活躍する選手を目指し、ジュニア世代選手の発掘・育成を行った。

ア 発掘事業（2 事業 606 人）

市内小学生を対象に、運動に対する適性テストや検証プログラムを行い、スポーツ戦略アドバイザー（阿部雅司氏）を中心とした有識者により、将来有望な子どもたちを発掘プロジェクト生として 11 名選出した。

（ア）1 月 12 日（月・祝）スポーツ能力測定会（北ガスアリーナ札幌 46）参加者 548 人

（イ）2 月 14 日（土）第 5 期発掘プロジェクト選考会（東区体育館）参加者 58 人（11 人選出）

イ さっぽろジュニアアスリート発掘プロジェクト（1 事業 26 人）

発掘プロジェクト選考会より選出した有望な子どもたちをプロジェクト生として、ジュニア期に必要なトレーニングや研修会、育成 8 種目の練習会などを年間 170 日実施した。また、小学校 4 年生から 6 年生は合宿において、他自治体のタレント発掘事業と合同トレーニングを実施した。

（ア）U-12 スキー 愛媛県強化合宿 参加者数：7 人

（イ）6 年生 東京都強化合宿 参加者数：6 人

（ウ）U-12 陸上 兵庫県強化合宿 参加者数：7 人

(エ) U-12 選抜 福岡県強化合宿 参加者：6 人

ウ 育成事業(4 事業 34 人)

冬季 4 種目（スノーボード、スキージャンプ、カーリング、フリースタイルスキー）の競技団体と連携し、長期的な展望に立って、日常的な強化練習や国内・国外合宿の支援を行い、次世代のオリンピック選手及びトップアスリートの育成を図った。

【全育成種目による合同研修会】

(ア) 6 月 15 日(日)トレーニング実践①（東区体育館）

(イ) 11 月 11 日（火）スポーツ栄養セミナー（オンライン）

(ウ) 11 月 29 日（土）・30 日（日）

ハイパフォーマンストレーニング講習会（つどーむクラブハウス）

(5) トップアスリート活用 of 取組 (22 事業 722 人)

ウィンタースポーツのすそ野の拡大や競技力向上を図ることを目的に、名誉館長として月寒体育館に藤本那菜氏、どうぎんカーリングスタジアムに小笠原歩氏を配置し、イベントにおける利用者との触れ合いや教室受講生への指導を行ったほか、カーリング愛好者を対象とした交流大会を実施した。

また、トップアスリートを活用した自主事業として、美香保体育館では村上佳菜子氏によるスケート初心者の小学生を対象としたスケート教室を実施し、星置スケート場では鈴木雄大氏による経験者向けのアイスホッケー教室を実施した。スポーツ交流施設（つどーむ）では、札幌を拠点として活動しているプロ選手の森本風咲氏による経験者向けのテニス教室を実施した。

4 スポーツ少年団の普及・育成事業 (30 事業 8,281 人)

スポーツ少年団活動を通じて、子どもたちの健全な心身の発育発達に資するために、札幌市スポーツ少年団を設置し、各種事業による普及と組織育成を行った（登録数 168 団 3,489 人）。

(1) 派遣事業 (5 事業 66 人)

日本スポーツ少年団及び北海道スポーツ少年団が主催する少年大会、リーダースクール並びに全道及び全国種目別交流大会への派遣。

ア JAPAN GAMES JUNIOR & YOUTH 2025 SAGA（名称変更／旧：全国スポーツ少年大会）

参加資格を有する団員からの参加希望がなかったことから令和 7 年度は該当者なし。

イ 第 51 回北海道スポーツ少年大会

開催日：8 月 22 日（金）～8 月 24 日（日）

会場：北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

参加者数：5 人

ウ 第 40 回北海道スポーツ少年団軟式野球交流大会

開催日：7 月 19 日（土）～21 日（月祝）

会場：旭川ドリームスタジアムほか

参加者数：1 チーム（16 人）

エ 第 23 回北海道スポーツ少年団バレーボール交流大会

開催日：9 月 20 日（土）・21 日（日）

会場：深川市総合体育館ほか

参加者数：団体男子 1 チーム（12 人）、女子 1 チーム（12 人）

オ 第 40 回北海道スポーツ少年団剣道交流大会

開催日：11 月 30 日（日）

会場：千歳市開基記念総合武道館

参加者数：団体 2 チーム（10 人）、個人男子 2 人、個人女子：2 人

カ エンジョイ！剣道フェスティバル 2026（名称変更／旧：日本スポーツ少年団剣道交流大会）

開催日：3月27日（金）～29日（日）

会場：富山県総合体育センター

参加者数：団体1チーム（5人）、個人男子1人、個人女子：1人

(2) リーダー養成・育成事業（5事業 20人）

ア 札幌市スポーツ少年団リーダー講習会・運動適性テストの開催

開催日：11月29日（土）

会場：中島体育センター

参加者数：7人

内容：講義「スポーツ少年団の組織と運営」「リーダーの責任と役割」

実技「運動適性テスト」

講師：講義…スポーツ少年団スタートコーチインストラクター 島本 俊男 氏

実技…スポーツ少年団体力テスト認定員 三浦 淳 氏

イ 札幌市スポーツ少年団ジュニア・リーダー研修会

開催日：3月21日（土）・22日（日）

会場：北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル深川（深川市）

参加者数：7人

内容：札幌市のスポーツ少年団活動をより充実させるため、スポーツ少年団活動の中核リーダーを一堂に集め、スポーツ少年団活動と集団生活を通して心身の鍛練及びリーダーとしての資質の向上を図ることを目的に開催した。

その他：深川市スポーツ少年団（指導者1人 団員5人）との交歓交流事業として実施

ウ 北海道スポーツ少年団リーダー研修会

開催日：12月20日（土）・21日（日）

会場：北海道立総合体育センター（北海きたえーる）

参加者数：2人

内容：全道のスポーツ少年団の活動で活躍している中高生リーダーが一堂に会し、スポーツ少年団リーダーとしての資質向上を図ることを目的として派遣した。

エ ジュニア・リーダースクール（道央ブロック）

開催日：2月14日（土）・15日（日）

会場：北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル深川（深川市）

参加者数：2人

内容：地域や市町村において活動しているスポーツ少年団リーダーの資質向上を図ることを目的として派遣した。

オ 第29回北海道・東北ブロックスポーツ少年団リーダー研究大会

開催日：11月1日（土）～3日（月・祝）

会場：北海道立青少年体験活動支援施設 ネイパル森（森町）

参加者数：2人

内容：北海道及び東北ブロックにおいて活動しているスポーツ少年団リーダーが一堂に会し、将来の指導者として資質向上を図ることを目的として派遣した。

カ シニア・リーダースクール

参加資格を持つ団員が不在のため令和7年度は該当者なし。

キ 日独スポーツ少年団同時交流への派遣

参加資格を持つ団員が不在のため令和7年度は該当者なし。

(3) 各種目交流大会（10 種目 18 事業 8,176 人）

軟式野球（2 事業 1,740 人）、サッカー（3 事業 597 人）、ミニバスケットボール（2 事業 3,677 人）、剣道（2 事業 1,252 人）、空手（1 事業 252 人）、バドミントン（2 事業 398 人）、少林寺拳法（1 事業 37 人）、冬季スポーツ（3 事業 91 人）、バレーボール（1 事業 80 人）、ソフトテニス（1 事業 52 人）、綱引（参加チーム数不足により中止）競技の交流大会を開催した。

(4) 指導者育成事業（1 事業 19 人）

ア 指導者・母集団研修会の開催

開催日：2月7日（土）

会場：中島体育センター

参加者数：19 人

内容：『実践スポーツ栄養学 ～その栄養の摂り方間違っていない？～』

講師：小松 信隆氏／ウェルネスプランニング札幌 代表

その他：令和 8 年度登録、スポーツ少年団指導者資格についての事務説明

(5) 表彰（1 事業 3 団体）

札幌市優良少年及び青少年育成者表彰

団体の部：3 団体

5 健康・体力づくり推進事業（健康づくりセンター 483 事業 54,295 人）

(1) 健康増進・運動指導事業／指定管理事業（69 事業 45,720 人）

ア 健康増進・健診事業（8 事業 5,635 人）

健康状態の把握に必要な検査と体力測定及びこれに基づく生活・栄養・運動などの総合指導プログラムを提供する「健康度測定」（4 事業 1,260 人）を行った。

また、健康診断を受ける機会が少ない 18 歳から 39 歳の女性を対象とした「女性のフレッシュ健診」を実施したほか、保健師、管理栄養士、理学療法士が専門的立場から利用者への相談に対し指導（4 事業 4,375 人）を行った。

イ 運動指導事業（61 事業 40,085 人）

市民の健康づくり活動の実践の場として健康増進を図るため、運動フロアにおける運動機器の利用指導、「エアロビクス」などの自由参加プログラム（33 事業 38,868 人）、健康度測定受診者などへの個別運動指導（3 事業 676 人）を行った。

また、各区保健センターが主催する生活習慣病予防教室などの健康づくりに関する事業に運動指導員を派遣し、運動の実践指導（25 事業 541 人）を行った。

(2) 健診・指導事業／受託事業（6 事業 227 人）

ア 健診事業（4 事業 205 人）

中央健康づくりセンターにおいて、各保険者が行う「特定健康診査」のほか、受診希望者に対して「大腸がん検診」、「緊急肝炎ウイルス検査」及び「前立腺がん検診」等を行った。

イ 指導業務（2 事業 22 人）

国保加入の特定健康診査受診者で「特定保健指導（積極的支援・動機づけ支援）」の対象となった方に、生活習慣の改善を目的とした保健・栄養・運動の指導を行った。

(3) 健康づくり活動の支援事業など／自主事業（408 事業 8,348 人）

健康・体力づくりをはじめ、生活習慣病や膝痛・腰痛の予防などを目的とした教室や健康づくり活動に対する動機づけとなる講座（284 事業 5,845 人）のほか、高齢者の健康維持や運動機能向上、生きがいづくり支援のための各種教室（96 事業 964 人）を行った。また、地域団体等が実施する健康づくりに関する講座へ健康運動指導士、理学療法士などを派遣し、運動の実技指導や健康講座などを行っ

たほか、健康度測定や女性のフレッシュ健診受診者対象のオプション検査等（28事業 1,539人）を実施した。

このほか、各センターの改修工事に伴う休館期間中、高齢者や教室受講者などの健康維持・運動継続を目的に近隣施設（中島体育センター、西区体育館・温水プール）にて「健康サポート教室」（中島 23事業 311人、西体 25事業 220人：自主事業に含めず）を実施した。

(4) 健康づくり・スポーツ施設との連携事業（8事業 59人：事業数に含めず）

体育館を利用する高齢者などをターゲットとして、健康づくりセンターの健康サポート教室（膝痛・腰痛などの運動器疾患や高齢者を対象とした運動教室）を体育館においても実施することで、新たなニーズの掘り起こしと健康度測定受診者の拡大を図った。

(5) ウェルネスの取組を通じた普及啓発事業（2事業 110人：事業数に含めず）

ア 市民に対する普及啓発の取組

協会 SNS やその他媒体及びスポーツ施設を会場とした健康情報の動画配信を行い、健康づくりイベントを実施した。（SNS等の情報発信 26件、イベントほか実施 8件 389人）

イ 企業に対する普及啓発の取組（健康経営サポート事業）

企業が抱える健康課題に対する健康支援として、生活習慣病予防等の健康セミナーや運動プログラムの提供を行う事業の提案を企業に向けて行った。（1事業 3件 104人）

ウ さっぽろウェルネス★スタートプログラム事業

札幌市における「札幌市の運動習慣化に向けた取組（運動・スポーツ習慣化促進事業）」に参画し、主に「働く世代」を対象とした運動習慣化プログラムを実施した。（1事業 2件 6人）

6 施設の管理運営事業

(1) 札幌市体育施設の利用状況／指定管理事業（単位：人）

ア 札幌市体育館グループ

施設名	個人利用	専用利用	合計
北ガスアリーナ札幌46	114,889	191,621	306,510
中島体育センター	49,498	67,841	117,339
北区体育館	108,089	70,928	179,017
東区体育館	72,541	61,492	134,033
白石区体育館	82,993	94,784	177,777
厚別区体育館	70,587	82,089	152,676
豊平区体育館	66,936	65,946	132,882
清田区体育館・温水プール	107,559	80,964	188,523
体育館	66,483	56,588	123,071
プール	38,953	24,376	63,329
体育館・プール共通	2,123	—	2,123
白旗山競技場	1,949	22,498	24,447
南区体育館	80,041	54,434	134,475

西 区 体 育 館・温 水 プ ー ル		194,262	90,729	284,991
	体 育 館	111,122	64,453	175,575
	プ ー ル	81,200	26,276	107,476
	体 育 館・プ ー ル 共 通	1,940	—	1,940
宮 の 沢 屋 内 競 技 場		6,076	29,280	35,356
手 稲 区 体 育 館		74,950	75,244	150,194
合 計		1,030,370 (前年度 1,007,782)	987,850 (前年度 938,997)	2,018,220 (前年度 1,946,779)

※西区体育館・温水プール：競技室他床工事のため R7.8～R7.9 休館（プールのみ通常営業）

※清田区体育館・温水プール：競技室他床工事のため R7.10～R7.11 休館（プールのみ通常営業）

イ 札幌市温水プールグループ

施 設 名		個 人 利 用	専 用 利 用	合 計
東 温 水 プ ー ル		73,382	35,001	108,383
白 石 温 水 プ ー ル		33,710	38,336	72,046
厚 別 温 水 プ ー ル		61,269	35,694	96,963
豊 平 公 園 温 水 プ ー ル		33,335	29,073	62,408
平 岸 プ ー ル		86,049	53,844	139,893
手 稲 曙 温 水 プ ー ル		56,675	33,524	90,199
合 計		344,420 (前年度 342,180)	225,472 (前年度 213,413)	569,892 (前年度 555,593)

ウ 札幌市美香保体育館

施 設 名		個 人 利 用	専 用 利 用	合 計
	体 育 館	4,248	46,508	50,756
	ス ケ ー ト 場	28,414	9,374	37,788
	公 園 野 球 場	—	44,508	44,508
合 計		32,662 (前年度 31,121)	100,390 (前年度 95,073)	133,052 (前年度 126,194)

エ 札幌市スケート施設グループ

施 設 名		個 人 利 用	専 用 利 用	合 計
月 寒 体 育 館		61,041	71,649	132,690
	体 育 館	28,104	6,603	34,707
	ス ケ ー ト 場	32,937	65,046	97,983
月 寒 屋 外 競 技 場		1,037	11,645	12,682
	ラ グ ビ ー 場	—	6,864	6,864
	庭 球 場	—	4,227	4,227
	弓 道 場	1,037	554	1,591

どうぎんカーリングスタジアム	—	49,762	49,762
星 置 ス ケ ー ト 場	10,185	40,307	50,492
合 計	72,263 (前年度 72,959)	173,363 (前年度 136,105)	245,626 (前年度 209,064)

オ 札幌市屋外競技場施設グループ

施 設 名		個 人 利 用	専 用 利 用	合 計
円 山 総 合 運 動 場		23,682	232,721	256,403
	野 球 場	—	97,619	97,619
	陸 上 競 技 場	21,042	82,241	103,283
	庭 球 場	—	52,531	52,531
	ス ケ ー ト 場	2,640	330	2,970
麻 生 球 場		0	0	0
	野 球 場	0	0	0
	庭 球 場	0	0	0
厚 別 公 園 競 技 場		13,843	14,584	28,427
	主 競 技 場	0	0	0
	補 助 競 技 場	13,843	14,584	28,427
	ト レ ー ニ ン グ ル ー ム	0	0	0
	共 通	0	0	0
平 岸 庭 球 場		—	13,459	13,459
合 計		37,525 (前年度 22,657)	260,764 (前年度 296,144)	298,289 (前年度 318,801)

※麻生球場：札幌市による保全工事のため R7. 4～R7. 11 休館

※厚別公園競技場：札幌市による保全工事のため R6. 4～R8. 3 休館（補助競技場のみ R7. 4 より営業開始）

カ 札幌市スポーツ交流施設

施 設 名		個 人 利 用	専 用 利 用	合 計
	屋 内 グ ラ ウ ン ド	74,187	643,920	718,107
	屋 外 テ ニ ス コ ー ト	—	8,735	8,735
	パ ー ク ゴ ル フ 場	7,448	45	7,493
	屋 外 球 技 場	—	4,520	4,520
	イ ベ ン ト 広 場	—	864	864
合 計		81,635 (前年度 82,871)	658,084 (前年度 678,075)	739,719 (前年度 760,946)

(単位：人)

体 育 施 設 合 計	4,004,798 前年度 (3,917,377)
-------------	------------------------------

(2) 札幌市健康づくりセンターの利用状況／指定管理事業（単位：人）

施設名	個人利用	専用利用	合計
中央健康づくりセンター	61,737	—	61,737
東健康づくりセンター	30,814	—	30,814
西健康づくりセンター	44,970	—	44,970
合 計	137,521 (前年度 129,544)	— (前年度 —)	137,521 (前年度 129,544)

※中央健康づくりセンター：札幌市による保全工事のため R5. 10～R7. 4 休館

※西健康づくりセンター：札幌市による保全工事のため R7. 9～R8. 10 休館

【全施設合計(1)+(2)】（単位：人）

今年度利用者数	4,142,319
前年度利用者数	4,046,921
増 減	95,398

(3) 学校施設の開放事業／受託事業（単位：人）

ア センター管理校の利用状況

施設区分	体育館	グラウンド	格技室	文化開放	合計
開放校数	168校	19校	18校	16校	221校
開放期間	通年	5月～9月	通年	通年	—
利用者数	640,309 (前年度 651,908)	13,717 (前年度 11,842)	23,229 (前年度 19,437)	7,463 (前年度 7,014)	684,718 (前年度 690,201)

イ 自主管理校の利用状況

施設区分	体育館	グラウンド	合計
開放校数	107校	1校	108校
開放期間	通年	5月～10月	—
利用者数	660,999 (前年度 644,087)	812 (前年度 461)	661,811 (前年度 644,548)

ウ プール開放の利用状況／指定管理事業

施設区分	プー ル
開放校数	21校
開放期間	7月～8月の土日
利用者数	2,648

【学校施設の開放合計 ア+イ+ウ】（単位：人）

今年度利用者数	1,349,177
前年度利用者数	1,339,981

	(前年度 5,232)
--	-------------

増	減	9,196
---	---	-------

7 情報提供及び調査研究

(1) 加盟競技団体情報の収集・提供

当協会ホームページにおいて各加盟競技団体の基本情報を紹介するとともに、ホームページの相互リンクを行い、利用者の利便性を向上した。

(2) イベント・教室などの募集情報の提供

SNS、地域ミニコミ誌、ローカルFM局、町内会回覧板などの各種媒体の活用により、健康・スポーツに関する情報を積極的に発信し、施設の利用を促進した。（「ふりっぱー」など）

(3) 協会ホームページにおける情報の提供

年齢や障がいの有無に関らず、誰にとっても分かりやすく利用しやすいホームページとなるよう、ウェブアクセシビリティ方針を策定しホームページに公開するとともに、アクセシビリティに関する日本工業規格 JIS X 8341-3:2016 の適合レベル AA に準拠した。また、教室情報のホームページをリニューアルし操作性の改善に努めた。

(4) 医科学的な調査研究及び分析並びに成果・情報の提供

健康・スポーツに関する調査・分析・検証を行い、情報・プログラムを市民、関係機関へ発信した。

(5) お客様満足度の調査及び情報の提供

施設利用の満足度調査を実施し、利用者の利用形態、利用頻度、運動器具や施設環境の状況などについて集計・分析するとともに、各施設に「ご意見箱」を設置し、利用者の要望や意見などを収集し、サービスの向上や業務改善に活用した。

8 社会貢献事業等

(1) スポーツ経営人材の育成及び活用

ア 「事業連携包括協定」の締結と協働事業

北翔大学との「事業連携包括協力協定」により、大会の運営に学生が携わった。（4大会 84人）

イ インターンシップ受入事業

インターンシップや職場体験学習を受け入れ、学生や産業界などの活動を支援した。

(2) スポーツを通じた社会貢献事業

ア プロスポーツへの貢献事業

札幌市を拠点とする以下のプロスポーツ団体の活動を支援した。

(ア) パートナー契約の締結

北海道コンサドーレ札幌、エスポラーダ北海道、レバンガ北海道、北海道イエロースターズ、アルテミス北海道

(イ) 北ガスアリーナ札幌 46 にてオフィシャルダンスドリルチーム「コンサドルズ」と「チアダンス教室」を協働開催した。

(ロ) 手稲区体育館にてコンサドーレサッカースクールを協働開催した。

(エ) エスポラーダ北海道と北ガスアリーナ札幌 46 にて女子フットサルスクール、南区体育館にてフットサルスクールを協働開催した。

(オ) 北ガスアリーナ札幌 46、清田区体育館・温水プール、西区体育館・温水プール、手稲区体育館にてレバンガ北海道バスケットボールアカデミーを協働開催した。

(カ) 北海道日本ハムファイターズと手稲区体育館にてファイターズベースボールアカデミー、北ガスアリーナ札幌 46 にてファイターズフィジカルアカデミーを協働開催した。

(キ) 中島体育センターにてエアリービーズバレーボールスクールを協働開催した。

イ 地域への安全なスポーツ環境の提供

さっぽろ救急サポーターとして、各施設には応急手当のできる職員を配置し、速やかに応急手当が行える環境を整えた。

ウ 役員就任など

「札幌市中学校体育連盟選手権大会・新人戦大会顧問」など、役員への就任による運営協力、「北海道卓球選手権大会」「札幌年齢別水泳競技大会」などのスポーツ大会の後援（109 事業）を行い、スポーツと健康づくりの活動を支援した。

(3) 地域貢献事業

ア 地域の環境保全及び防犯活動

植栽などの実施、「生物多様性さっぽろ応援宣言企業」への登録など、環境保全活動に積極的に協力した。また、地域における防犯・安全活動への協力として、29 施設で「札幌市地域安全サポーターズ」へ登録し、地域の防犯パトロールや、子ども 110 番の店として防犯活動を推進した。

イ 障がい者就労施設などへの協力

障がい者就労施設（障がい者支援施設、就労継続支援 B 型事業所など）から物品購入、印刷発注などを行い、地域の福祉施策へ積極的に協力した。

ウ 募金活動及び献血への協力

社会貢献や地域支援などを目的とした関係機関との連携支援として、盲導犬育成支援募金に協力した（募金額：157,976 円）。また、「献血サポーター」として登録し、献血へ積極的に参加することを全職員に呼びかけ、北海道血液センターにて成分献血及び全血献血に協力した。

エ 地域コミュニティ活性化事業（17 事業 13,496 人）（再掲） 区役所、商店街組合、町内会などと連携して、地域活性化の活動・イベントに運営参画するとともに、施設近隣の住民を対象とした水上安全無料講習会などの啓発事業を実施した。

(4) サッポロスマイルパートナーズへの会員登録

「魅力都市さっぽろ」を広く発信し、「笑顔になれる街」の実現に向けて、札幌市のシティプロモート活動に協力した。

9 利用者・事業参加者の総数と収支

(1) 総数

内 容	利用者・参加者数（人）
指定管理施設の運営事業（講習会・教室、大会などの参加者数含む）	4,142,319
学校施設の開放事業（講習会など含む）	1,349,177
スポーツ・健康づくり事業の開催など（指定管理施設外）	55,347
合 計	5,546,843 (前年度 5,434,260)
増 減	112,583

(2) 収支

収 入 4,731,399,946 円

経 費 4,693,392,630 円

10 処務の概況

(1) 令和7年度末役員・評議員

役 職	氏 名	当初就任年月日	就任年月日	常勤・非常勤
会 長	生島 典明	R2. 4. 1	R2. 4. 1	非常勤
理 事 長	鈴木 和弥	R6. 4. 1	R7. 6. 30	常 勤
常務理事	柴田 幸雄	R2. 6. 26	R7. 6. 30	常 勤
常務理事	長澤 茂嗣	R2. 4. 1	R7. 6. 30	非常勤
理 事	川島 行雄	H27. 6. 26	R7. 6. 30	常 勤
理 事	沖 洋安	R 元. 6. 26	R7. 6. 30	非常勤
理 事	沖田 孝一	R 元. 6. 26	R7. 6. 30	非常勤
理 事	杉本 淳	R7. 4. 1	R7. 4. 1	常 勤
理 事	野坂 政司	R2. 4. 1	R7. 6. 30	非常勤
理 事	佐藤 勝美	R2. 4. 1	R7. 6. 30	非常勤
理 事	山崎 文子	R3. 6. 28	R7. 6. 30	非常勤
理 事	北島(川端) 絵美	R3. 6. 28	R7. 6. 30	非常勤
理 事	小野 聖子	R7. 6. 30	R7. 6. 30	非常勤
理 事	熊谷 敏夫	R7. 6. 30	R7. 6. 30	非常勤
監 事	酒井 隆	R5 .6. 28	R7. 6. 30	非常勤
監 事	梅津 太	R7. 3. 26	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	川初 清典	H25. 4. 1	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	晴山 紫恵子	H25. 4. 1	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	柳原 正明	H28. 4. 1	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	堀田 真理	H29. 6. 29	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	平澤 光志	R2. 4. 1	R6. 6. 27	非常勤
評 議 員	紺谷 好範	R2. 6. 26	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	阿部 雅司	R3. 6. 28	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	金谷 泰亨	R5. 6. 28	R5. 6. 28	非常勤
評 議 員	城田 仁	R7. 6. 30	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	高田 耕	R7. 6. 30	R7. 6. 30	非常勤
評 議 員	牧 由	R7. 6. 30	R7. 6. 30	非常勤

(2) 令和7年度末職員数(単位:人)

職種／性別	男 性	女 性	合 計
総 合 職 員	93	43	136
職務限定職員	47	43	90
再雇用職員等	17	1	18
契 約 職 員	11	7	18
臨 時 職 員	0	0	0
パートタイム職員	233	379	612
合 計	401	473	874

(3) 理事会・評議員会の開催状況

ア 理事会

開催年月日	議事事項
第1回 令和7年6月13日(金)	(1) 第1号議案 令和6年度事業報告について (2) 第2号議案 令和6年度決算及び監査報告について (3) 第3号議案 令和6年度公益目的支出計画実施報告について (4) 第4号議案 令和7年度定時評議員会の開催について
第2回 令和7年6月30日(月)	(1) 第1号議案 役職理事の互選について (2) 第2号議案 職務代行順序の決定について (3) 第3号議案 令和7年度収支予算の変更について
第3回 令和7年9月30日(火)	(1) 第1号議案 職務限定職員就業規程等の改正について (2) 第2号議案 旅費規程の改正について (3) 第3号議案 職員の育児休業及び介護休業の取扱いに関する規則の改正について (4) 報告第1号 職務執行状況報告(理事長、常務理事)
第4回 令和8年3月26日(木)	(1) 第1号議案 令和8年度事業計画について (2) 第2号議案 令和8年度収支予算について (3) 第3号議案 会社役員賠償責任保険の加入と内容について (4) 第4号議案 職員給与規程の改正について (5) 第5号議案 再雇用職員就業規程の改正について (6) 第6号議案 公務員等退職者就業規程の改正について (7) 第7号議案 職員の育児休業及び介護休業の取扱いに関する規則の改正について (8) 第8号議案 職員就業規則の改正について (9) 第9号議案 職務限定職員就業規程の改正について

	(10) 第 10 号議案 契約職員就業規程の改正について (11) 第 11 号議案 臨時職員就業規程の改正について (12) 第 12 号議案 パートタイム職員就業規程の改正について (13) 第 13 号議案 懲戒処分細則の改正について (14) 第 14 号議案 処務規程の改正について (15) 第 15 号議案 加盟団体に関する規程の改正について (16) 第 16 号議案 加盟団体加盟金及び負担金に関する取扱規則の改正について (17) 第 17 号議案 加盟団体代表者委員会設置規程の改正について (18) 報告第 1 号 職務執行状況報告(理事長、常務理事)
--	---

イ 評議員会

開催年月日	議事事項
定時評議員会 令和 7 年 6 月 30 日（月）	(1) 報告第 1 号 令和 6 年度事業報告について (2) 報告第 2 号 令和 6 年度公益目的支出計画実施報告について (3) 第 1 号議案 令和 6 年度決算及び監査報告について (4) 第 2 号議案 評議員の選任について (5) 第 3 号議案 役員の選任について

(4) 収支及び正味財産の増減の状況並びに財産の状態の推移

(単位：千円)

	令和 3 年 3 月期	令和 4 年 3 月期	令和 5 年 3 月期	令和 6 年 3 月期	令和 7 年 3 月期	令和 8 年 3 月期
経 常 収 益	3,601,812	3,744,595	4,256,330	4,406,900	4,512,828	4,731,400
経 常 費 用	3,742,355	3,949,300	4,287,347	4,421,479	4,520,287	4,693,393
当 期 経 常 増 減 額	△140,543	△204,705	△31,017	△14,579	△7,459	38,007
経 常 外 収 益	165,566	254,205	－	－	1,543	27
経 常 外 費 用	－	－	－	－	－	－
法 人 税 等	520	41,169	520	520	520	520
当期一般正味財産増減額	△24,504	8,331	△31,537	△15,099	△6,436	37,514
期首一般正味財産額	1,492,347	1,516,851	1,525,182	1,493,645	1,478,546	1,472,110
期末一般正味財産額	1,516,851	1,525,182	1,493,645	1,478,546	1,472,110	1,509,624
当期指定正味財産増減額	52,000	△ 13,000	△ 13,000	△ 13,000	△12,490	△340
期首指定正味財産額	20,000	72,000	59,000	46,000	33,000	20,510
期末指定正味財産額	72,000	59,000	46,000	33,000	20,510	20,170
期 末 正 味 財 産 額	1,588,851	1,584,182	1,539,645	1,511,546	1,492,620	1,529,794
資 産 合 計	2,872,565	3,008,356	2,836,602	2,776,329	2,792,363	2,837,861
負 債 合 計	1,283,714	1,424,174	1,296,957	1,264,783	1,299,743	1,308,067
正 味 財 産	1,588,851	1,584,182	1,539,645	1,511,546	1,492,620	1,529,794

(5) 公認会計士の関与の有無

会計事務所との監査契約に基づき、年 3 回の監査と指導・相談を受けている。